

東久留米市立南中学校 第1学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	・語彙力が不足している生徒がいる。	・毎時間宿題を出し、漢字練習や語句の確認の定着を目指す。	○毎時間の確認と、小テストの実施。正答率70パーセントを目指す。
	・文章を書くことが苦手な生徒がいる。	・単元ごとに短い作文を書き、文章を書くことに対する抵抗感を減らす。	◎作文の形式や作文用紙の使い方の基本を確認する。200字の作文を15分程度で書けるようにする。
社会	・世界の諸地域の特色を自然や地域的特色に基づいて考えることができない生徒がいる。	・雨温図などを資料を読み取る活動や地図帳から地形などの特徴を読み取る活動を多く取り入れる。	○ワークシートや白地図を提出させ、80%以上の生徒ができるようにする。
	・歴史的分野における基本用語の定着が不足している生徒がいる。	・授業で単元ごとに小テストを実施する。 ・ノートを活用した復習の指導を行う。	○小テストで正答率を60%にする。 ○ノート点検を月に1回程度行い確認する。
数学	・正負の数の計算に不安を抱く生徒がおり、文字を含む計算では計算力の定着に個人差が見られる。	・正負の数や文字式の基本的な計算を振り返る時間を作る。	○計算確認テストを2週間に1回～2回実施し、正答率80%を目指す。
理科	・実験で測定した数値を計算することが苦手な生徒がいる。	・ワーク、授業プリントなどを用いて、授業で計算練習をする時間を設ける。	○定期テストの他に、計算問題に関する小テストを行い、正答率60%以上にする。
音楽	・音楽から感じ取ったことを言葉にして話したり、文章にしたりする力（作文力）に個人差がある。	・発問やワークシートを工夫するとともに、ペアやグループでの対話や、学級全体で学習活動を共有しながら授業を組み立てていく。	○表現活動に思いや意図をもち、すすんで音楽の良さを味わい、楽しむことができる生徒50%以上を目指す。
美術	・作品を粘り強く制作する力に個人差が大きく見られる。	・試行錯誤しながらイメージスケッチする時間を設け、アイデアを膨らませられるよう助言する。	○作品制作の初期の段階で、1時間実施する。（2・3学期合わせて1回以上）
保健体育	・学んだ知識を基に、自らの課題を把握する力が不十分な生徒がいる。	・学習カードに学習情報を記載し、1単位時間ごとにポイントをしばって学習を進める。	○学習カードの自己評価において、「できた」「概ねできた」の生徒を80%以上とする。
	・課題の解決方法を考える力が不十分な生徒が多い。	・課題の改善方法等を具体的に考えられない生徒に対しては、個別に指導をする。	○80%以上の生徒が解決方法を見いだせるようにする。
技術	・ものづくり(作業)に対する興味・関心は高いが、その基となる設計(製図)などについて、十分に理解できていない生徒が多い。	・ポイントを分かりやすくまとめたプリントを用意し、ミスを最小限にする。また、作業をグループで行い、生徒同士確認し合い完成度を高めていく。	○達成感を味わえるよう、作業が遅い生徒に対しては放課後に時間を設定するなどし、未完了のまま終える生徒をゼロにする。

家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・実技・実習に意欲的に取り組むが、基礎・基本について十分に理解できていない傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の繰り返し徹底指導をし定着させるようにする。グループでの協働作業を生かし理解を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各自生活の中での課題を見つけレポート提出、概ね良好のB評価の生徒80%以上。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・英単語が十分に書けない生徒がいる。 ・授業で扱った英文を読めるようになっても、書くことになると書けない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み明けに英単語100問のテストを出題し、継続的に既習単語を書く練習をしていく。 ・繰り返し学習をさらに徹底することと、授業中に書く活動を増やすことで定着を図る。夏休みには音読の宿題を出題する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2学期の確認テストで半数以上の生徒が80%以上を取れるようにする。 ○小テストを定期的に行い、達成度を確認し、半数以上の生徒が70%以上を取れるようにする。
科特別道の徳教	<ul style="list-style-type: none"> ・発問に対して、自らの考えを表現することが苦手な生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多角的な意見を導けるように発問を工夫する。グループワークを通して、他者の考えを認め合う機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○すべての授業ごとに、発問の仕方を検討し、グループワークを取り入れる。
間学総合的時な	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を探究する力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数のグループ活動を活用し、個々の課題を把握しやすいようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表や新聞作成を通して、自己評価をする。概ね良好とする生徒60%以上を目指す。